

水稲は豊作、陸稲は平年を下回る。

(昭和42年水陸稲作付面積ならびに9月15日現在作柄概況調査)



作物名	作付面積	前年対差	作況指数	10a 当り平年収量	試算収穫量
水 稲	110,000 ^{ha}	+ 4.3 [%]	107	396 ^{kg}	467,500 ^t
陸 稲	29,700	- 7.2	93	206	57,000
計	139,700	+ 1.6			524,500

1 作付面積

水稲——前年に比べ、4,500ヘクタール増
前年に引続き全県的に陸田造成が活発に
行なわれ、作付は増加した。

陸稲——前年に比べ、2,300ヘクタール減
陸田転換により、作付は減少し、とくに
南部、西部地域の減少が目立つた。

2 気象状況

8月15日以降、気温は平年並で日照やや
少なく、降水量は8月下旬51.9mm、9月
中旬の台風22号により116mmの降水量が
あつた。

3 作柄、被害状況

水稲——作況指数107 前回同様（8月15日
現在作柄概況時）

早期栽培——作況指数111前回同様

比較的気象状況に恵まれ、生育は順調に
進み、とくに有効穂数、1平方メートル
当り粒数は過去5カ年中最高となり、刈
取期は生育の進捗により平年より6日程
早く、坪刈調査よりの10アール当り未調

製生籾重は平年を上回っている。

普通栽培——作況指数106前回同様

8月15日以降9月中旬に台風22号の影響に
より若干倒伏が見られたが、収量におよ
ぼす影響は少なく早期栽培同様に、有効
穂数ならびに粒数は過去5カ年中最高を
示した。

陸稲——作況指数93前回差-9

7月中旬まで、生育は極めて良好であつ
た。7月下旬以降9月上旬までの降水量
は8月下旬に51.9mm程あつたのみで引続
き無降水に経過したため、生育はとくに
阻害された。

9月中旬の台風22号により116mm程の降
雨があつたが、生育の好転は、時期的に
おそく、干害の発生が、鹿行、南部、北
部地域ならびに、西部地域の一部と、広
範囲にわたり発生したため、前回より大
幅の作柄低下となつた。（農林省茨城統
計調査事務所）

新しく県政資料のサロン

「行政資料室誕生」

さる9月1日県の機構改革により、県庁内（本
館3階に新しく「行政資料室」が設置され、専任
職員を配置し業務を開始いたしました。

この「行政資料室」は県庁の事務機構の改善と
近代化への一環として、また進展する社会の要請
に応じて誕生したものであります。

いままで各部課で分散管理の統計資料を含む各
種行政資料を1ヶ所に集中一元化して管理し、適
確迅速にまた資料の有効的、有機的な利用をはか

るとともに、県行政の運営に大いに役たてよう
とするものであります。

この「行政資料室」には約2万冊の行政資料が
収納され、県職員のほか県民どなたでも閲覧利用
することができます。

日頃市町村職員、統計調査員の皆さんにはご多
忙中いろいろとご迷惑をおかけしておりますが、
皆さまのご努力の結晶である各種の統計資料も豊
富にこの行政資料室に保存されることとなります
。ご来庁の節は是非一度お立ち寄り下さるようお待
ちしております。今後ともよろしくご支援下さる
ようお願いいたします。（行政資料係）